



平成28年9月16日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア サ カ 理 研  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 田 慶 太  
(コード番号:5724)  
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員  
管 理 本 部 長 佐 久 間 良 一  
TEL. 024-944-4744(代)

レアメタルリサイクル実証事業投資計画に関するお知らせ

当社は、平成26年8月から、いわき工場生産技術開発センター（いわき市泉町黒須野）において、光学ガラスを原料としたレアメタル・レアアース回収の実証実験を行ない、この知見を元に、平成28年1月よりレアメタルの回収および材料販売事業を開始しております。今般、同工場において、レアメタル含有スクラップに含まれるレアメタルの回収技術開発のための投資計画を決定しましたのでお知らせいたします。

なお、本事業は「平成28年度 福島イノベーション・コースト構想 地域復興実用化開発等促進事業（一次公募）」に採択されております。いわき工場において、当社が福島県からの補助金の採択を受けるのは、「平成25年度 第3次ふくしま産業復興企業立地補助金」の採択に次いで2例目になります。

記

1. 事業概要

場 所	いわき市泉町黒須野（当社 いわき工場敷地内）
総事業費	約660百万円
補 助 金	約430百万円（見込）
借 入 金	約220百万円
研究開発費	約170百万円（平成29年9月期に計上予定）
事業期間	平成28年9月から平成29年2月を予定

2. 事業目的

（背景）

日本産業界の牽引役である高付加価値・高機能製品には、一般にレアメタルに分類される元素が多種使用されています。例えば、超硬工具では高硬度を実現するためにタングステンが使用され、また、航空エンジンや発電所のタービンには高耐熱性を付与するためにレニウムやタンタル、タングステン等が添加されています。

特に航空機産業等の分野においては、今後ともレアメタル需要が増加すると見込まれます。

一方で、リサイクルの見地からこれら製品のマテリアルフローを俯瞰すると、必ずしもレアメタルの国内でのリサイクルが十分になされていない点が課題となっています。

弊社がこれまで培ってきた金属の抽出・精製技術を応用することで、レアメタルリサイクルの課題を解決し、資源の国内循環に貢献することを目的としています。

(回収方法)

(1) 光反応を利用するレアメタル固体化技術

学校法人神奈川大学（理学部化学科 堀久男教授）との共同研究

(2) エマルションフロー法によるレアメタル分離精製の効率化技術

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（環境科学研究グループ 長縄弘親グループリーダー）との共同研究

(3) 乾式法による高融点金属処理技術

当社は、以上の3技術の実験室レベルでの試験を完了しており、本件の実証、事業化を推進することで、回収率の向上、処理コストの低減効果に加え、環境負荷の軽減を目指します。

### 3. 事業効果

レアメタル事業における3年後の売上は約10億円を見込んでいます。

### 4. 本投資の業績に与える影響について

本事業への投資は平成29年9月期を予定しており、今期の業績には影響を与えません。

来期業績への影響につきましては、11月初旬予定の平成28年9月期決算発表時に公表いたします。

以上